

研究協力校： 岐阜市立長良中学校 県立各務原高等学校

【平成13年度の成果と課題】

【研究推進体制、教師の意識等について】

中高それぞれ2回の交流を通して、互いに目指す生徒像を知ることができた。
 中学校段階において、基礎・基本の確実な定着を図ることが、高等学校での英語力の基礎となる。(中学校における実践：毎時間の冒頭に、イメージネーションゲーム等により運用させたい言語材料等の習熟を図る「帯活動」の実施)
 少人数指導の在り方について相互交流ができた。
 交流の視点を明確にして、研究を積み重ねることで、授業改善や教師の意識改革を図りたい。

【生徒の実態等について】

《長良中学校》
 学び方が身に付いており、学習に向かう意欲が高い。
 定型の学習活動は、自信をもってしているが、自由度が高く創造性が求められる学習(既習事項を駆使する力等)には、困難を感じる生徒が多い。

《各務原高等学校》
 英語科の生徒は、英語に対す興味・関心や能力が高く、ALTに対して積極的にコミュニケーションを図ろうとする。
 学習習慣を一層定着させたい。

【研究テーマ】

基礎・基本の確実な定着の在り方
 ～ 指導方法・形態の工夫改善 ～

【平成14年度の具体的な取組内容】

【中学校として】

- 1 基礎・基本の定着を図る指導計画の作成
 単元の基礎・基本の明確化
 単元のねらいと付けたい力の明確化
 単元の構造化
- 2 「ひびきあい」を大切にした授業の構造化
 本時のねらいの明確化
 本時のねらいに迫るための手立て
 基礎・基本の定着のための「ひびきあい」の組織化
- 3 「ひびきあい」を支える学習集団の育成

【高等学校として】

- 1 コンピュータの効果的な活用の在り方とその問題点の明確化
 「LL演習」の授業においてコンピュータの効果的な活用の在り方
- 2 どの生徒にも理解させる直読読解の指導の在り方
 英文の語順の流れに沿って、意味を理解させる指導方法の工夫改善
 読みとる力と聞き取る力の関連的な指導の在り方

「ひびきあい」・・・長良中学校の研究構想に位置付いている言葉で、英語においては、お互いの表現を交流し合うことを通して、仲間の表現のよさに学び、よりよい表現へと深まっていく過程のことを「ひびきあい」と呼んでいる。